

# 2018年に向けて 期待される旬の演奏家を聴く

## プログラム

今年も残すところ僅かとなりました。通常のCDコンサートとしては最後となる今回は、2018年に向けてその活躍が一層期待される、今が旬の演奏家を集めてお聴きいただきます。

ジャニーヌ・ヤンセンは1978年生まれのオランダ出身の女流ヴァイオリニスト。14歳でデビュー、2003年にはデッカと専属録音契約を結び、ベルリン・フィル、ロイヤル・コンセルトヘボウ、ロンドン響、パリ管等世界の名門オーケストラと共演を重ね、今年のNHK交響楽団のヨーロッパツアーにソリストとして参加、ソロ、室内楽活動にも積極的に取り組んでいます。繊細な表現力とスケールの大きな劇的表現力を兼ね備えた実力派ヴァイオリニストです。カティア・ブニアティシヴィリは1987年グルジア生まれの女流ピアニスト。10歳でコンサートツアーを行い、オレグ・マイセンベルクに見いだされ、ウィーン国立音楽大学へ入学、世界の名門オーケストラと共演を重ねる一方、ギドン・クレメル等と共演、室内楽、ソロ活動も積極的です。“感性のピアニスト”とでも言いたい多彩な表現力を持ち、常に刺激を与えてくれる、これから増々目の離せないピアニストです。アリーナ・イブラギモヴァは1985年ロシア生まれの女流ヴァイオリニスト。4歳からヴァイオリンを始め、10歳でイギリスに移住。2010年のロイヤル・フィルハーモニック協会のヤング・アーティスト賞など多くの賞を受賞。バロック音楽から現代作品までピリオド楽器とモダン楽器を使い分け、独特の奏法から奏でる響きは新鮮で、今後に期待のかかるヴァイオリニストです。ダニエル・ミュラー＝ショットは1976年ミュンヘン生まれのドイツ出身のチェリスト。ハインリッヒ・シフ、ステイーヴン・イッサーリスに師事。ロストロポーヴィチから1年間個人指導を受ける。1992年チャイコフスキー国際コンクールで優勝、着実なキャリアを積んで来ました。美しい音色と優れた技巧を持ち合わせていて、来年さらなる期待がかかります。スザンナ・マルツキは1969年ヘルシンキ生まれのフィンランド出身の女流指揮者。チェロ奏者からシベリウス音楽院でヨルマ・パヌラ、レイフ・セーゲルスタムに教えを受け指揮者に転身。2006～13年、ブーレーズが率いた「アンサンブル・アンテルコンタンポラン」の音楽監督。2016年からは名門ヘルシンキ・フィルの音楽監督に就任。今年2017年にはベルリン・フィルにデビューして話題となりました。今最も注目の女性指揮者です。(中川)

\*\*\*\*\*

ウォルフガング・アマデウス・モーツァルト (1756~ 1791):

ヴァイオリン協奏曲第3番ト長調 K 482

ジャニーヌ・ヤンセン (Vn) / パーヴォ・ヤルヴィ 指揮 NHK 交響楽団  
(2017.2.28 ベルリン・フィルハーモニーホールでの Live)

マヌエル・デ・ファリャ (1876~ 1946)【クライスラー編曲】:  
スペイン舞曲 (歌劇「はかなき人生」より)

ジャニーヌ・ヤンセン (Vn) / イタマール・ゴラン (P)  
(2016.2.17 紀尾井ホールでの Live)

フランツ・リスト (1811~ 1886):

愛の夢第3番変イ長調

カティア・ブニアティシヴィリ (P)  
(2011.7.18 スイス、ヴェルピエ、サル・デ・コンバンでの Live)

ピアノ協奏曲第2番イ長調

カティア・ブニアティシヴィリ (P) / ズーピン・メータ 指揮 イスラエル・フィルハーモニー管弦楽団  
(2015.7 テルアヴィブ、チャールズ・ブロンフマン・オーデトリウムでの Live)

\*\*\* 休憩 \*\*\*

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン (1770~ 1827):

ヴァイオリン・ソナタ第7番八短調 op 30-2 ~ 第1楽章、第2楽章から、第4楽章

アリーナ・イブラギモヴァ (Vn) / セドリック・ティベルギアン (P)  
(2009.10.27 ロンドン、ウィグモア・ホールでの LiveCD盤)

カミーユ・サン＝サーンス (1835~ 1921):

チェロ協奏曲第1番イ短調 op 33 ~ 抜粋

ダニエル・ミュラー＝ショット (Vc) / 準・メルクル 指揮 NHK 交響楽団  
(2013.2.15 NHKホールでの Live)

ジャン・シベリウス (1865~ 1957):

交響曲第2番二長調 op 43 ~ 第1楽章から、第3楽章、第4楽章

スザンナ・マルツキ 指揮 ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団  
(2017.9.9 ベルリン・フィルハーモニーホールでの Live)